

宮原 千波

1. 事業実施の目的

博士論文執筆にむけた調査研究のため

2. 実施場所

パプアニューギニア・ミルンベイ州・ルイジアード群島パナエティ島

3. 実施期日

2024年7月1日(月)～2024年8月27日(火)

4. 成果報告

●事業の概要

パプアニューギニアに2か月間滞在し、現在も島ごとの専門的な手工業生産とそれらの交易がおこなわれているミルンベイ州のルイジアード群島パナエティ島に6週間滞在した。具体的には、ルイジアード群島内において木造セーリングカヌーの専門集団的な位置づけとなっているパナエティ島の人々の船づくりの様相を調査した。本調査は、来年度に予定しているパプアニューギニア・ミルンベイ州における長期フィールドワークの調査地および調査項目・方法の選定のための予備調査としての位置づけであった。

●本事業の実施によって得られた成果

本調査は、来年度に予定しているパプアニューギニアでの長期フィールドワークのための、調査地の選定と、調査項目・方法の選定という目標を兼ねていた。得られた成果としては、ルイジアード群島内において自他ともに船造りの専門集団であると自覚するパナエティ島の人々の、生活に密接に根付いた木造船製作及びその交換のあり方や、洗練された造船技術についての基礎的な情報を網羅的に収集することができた。本来、パナエティ島での調査では、島民の大半が木造船製作に関し非常に洗練された技術を持っているとのことから、木材加工や造船における技術的側面についての調査を行う予定であった。しかしながら、参与観察を通してそれらの技術的側面のみならず、島民のあいだでの木造船製作という仕事のあり方や、ミルンベイ州内の多くの島々がパナエティ島のみにも木造船製作を依存しているという、木造船を巡る社会的状況についても非常に興味深い情報を収集することができた。このことは、今後の自身の研究の方向性に非常に大きく影響するであろう。

●本事業について

私は、修士課程までは日本列島内のみを研究対象としていたため、まさか博士課程では国外でフィールドワークを行うとは思っていませんでした。海外旅行などもしたことがなく、国外経験がさほど豊富ではない中でパプアニューギニアへ渡航することは大変難易度が高

く、渡航準備や安全対策が非常に大変でした。そのような中で、人類文化研究コース学生派遣事業の調査活動として金銭面の支援をいただくことができたおかげで、大変実りの多い調査になっただけでなく、十分に準備をして調査に臨むことができたために、フィールドであるパプアニューギニアが大好きになりました。私のように、はじめて海外調査をするという学生にとっては、このような制度を利用できると海外調査の行いやすさがぐんと変わると感じました。